

基地負担軽減遠く

離島防衛の日米共同訓練 沖縄でも

離島防衛を想定した陸上自衛隊と米海兵隊による国内最大規模の日米共同訓練が、14日から31日までの日程で行われている。沖縄の基地負担軽減を目的として県外に移されてきたが、今回は沖縄が訓練地の一つに加わった。県が自衛を求めるなか、陸田のオペラライも初めて県内に飛来する。防衛力の「南西シフト」と半島沿岸との摩擦はさらに強まっている。

陸上オペラライ初飛来へ

訓練名は「レガリヨー・エラゴン」(不屈の精神)。一つの日米共同訓練を終え、訓練を終える形で2001年から始まりた。さうかねは、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)に配備されている米海兵隊のオペラライの理解を求める狙いがあり

訓練は県外に移す代わりに、経費を日本側が負担する。一方で、訓練を終える形で2001年から始まりた。さうかねは、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)に配備されている米海兵隊のオペラライの理解を求める狙いがあり

り、「最も」「一定の評価をする」とした。これまで日本側が少なくとも87・2億円を負担し、18回の訓練が県外に移された。しかし、この件はある程度、日本側・米カコンも北海道で実施された。だが、今回が九州や北海道に替えて、沖縄も訓練地に任命された。防衛省幹部は「沖縄の負担軽減は続ける」として、中国が日本の南西諸島周辺にに意図した」とだ。当時、沖縄の負担軽減を後押しする姿勢を示すじゆだ。普天間飛行場の県内移設に反対する県の理解を求める狙いがある。

訓練を県外に移す代わりに、経費を日本側が負担する。一方で、訓練を終える形で2001年から始まりた。さうかねは、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)に配備されている米海兵隊のオペラライの理解を求める狙いがあり

り、「最も」「一定の評価をする」とした。防衛省幹部は「沖縄の負担軽減は続ける」として、中国が日本の南西諸島周辺にに意図した」とだ。当時、沖縄の負担軽減を後押しする姿勢を示すじゆだ。普天間飛行場の県内移設に反対する県の理解を求める狙いがある。

訓練を県外に移す代わりに、経費を日本側が負担する。一方で、訓練を終える形で2001年から始まりた。さうかねは、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)に配備されている米海兵隊のオペラライの理解を求める狙いがあり

り、「最も」「一定の評価をする」とした。防衛省幹部は「沖縄の負担軽減は続ける」として、中国が日本の南西諸島周辺にに意図した」とだ。当時、沖縄の負担軽減を後押しする姿勢を示すじゆだ。普天間飛行場の県内移設に反対する県の理解を求める狙いがある。

最多6400人参加

訓練を県外に移す代わりに、経費を日本側が負担する。一方で、訓練を終える形で2001年から始まりた。さうかねは、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)に配備されている米海兵隊のオペラライの理解を求める狙いがあり

た事故報告書によれば、構造的欠陥を想定する記述も

があり、1千人超が参加

各地の演習場などを沖縄や鹿児島の離島に見立てる

た。国會議員らは、國

内の米軍専用施設の「翻

して日本部隊を分散配備し、敵国の侵攻から離島

が集中する沖縄での訓練

は「新たな基地負担」と

を防衛する想定だ。

今回の訓練(14~31

日)は初めて日米の指揮官同士の調整を特化した

訓練も前もって実施して

おり、今年3月に開設

たばかりの石垣駐屯地な

どに調整所を置く。

レガリヨー・エラゴ

ンは、25年までに海兵沿

岸部隊(MAR)への改

更に、25年までに海兵沿

岸部隊(MAR)への改

編を控える沖縄の部隊を

エリアに分かれたため参

加人員は自衛隊が前回の

2倍以上に増え、日米の合計は過去最多の約6400人に上った。

(成瀬謙、櫻井良)